

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	虹の家の理念は、「私達は入居者様を第一に考え、安心して自分らしい生活を支援し守ると共に、地域との関わりを大切に開かれたグループホームを目指します」。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が「虹の家の7つの理念」を共有し、各自のケアについてより良くなるようお互い意見交換をしている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して下さる方々を中心に、理解は深まっていると思う。ご家族には、「虹の家新聞」を回覧板で地域に公開することを了承して頂いている。	○ 運営推進会議のほかにも、広く家族や地域の方々と一緒に介護について話し合う機会を設けるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎月「虹の家新聞」を発行し、地域の回覧板に入れてもらいホームの様子を紹介している。庭や菜園作りに利用者様と家族のほか、地域の方にも積極的に参加していただいている。	○ もっと多くの方々が来て下さるように、利用者様のプライバシーに配慮しながらさらに広報に努めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣保班に加入し、回覧板はなるべく利用者様と一緒に届けに行っている。近所のお祭りや清掃活動にもできるだけ参加し、交流することに努めている。介護教室や救命講習を開催したり、地域の筋トレ教室に利用者様と参加した。	○ 昨年チャレンジウィークの中学生を受入れたところ利用者様も喜ばれた。今後も利用者様が、子供からお年寄りまで様々な年代の方と交流する機会がもてるように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>以前、ベテランの職員がいた時には電話での介護相談を受け付けていたが、現在は行っていない。</p>	○	<p>電話や直接来苑で空室の問い合わせや入所希望の見学があった時には、できる限り相談にのっている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>各自が自己評価を行うことで、日々のケアを振り返ることができる。外部評価の結果を真摯に受け止め、指摘事項については全職員で話し合い、改善の必要がある場合には速やかに取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者様の状況および活動報告の後、必ず意見交換を行い、家族や地域代表の意見や要望、市からの助言等を改善に役立てている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>書類の提出などは、なるべく郵送でなく直接届け、いろいろと相談にのっていただき、指導、助言のもとサービス向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修で学ぶ機会があった職員が他の職員に資料を公開して情報を共有したが、個々の利用者様の必要性についての話し合いは行われていない。</p>	○	<p>今後、お一人ひとりの案件について具体的に話し合いたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>理念にもあるとおり、身体的な拘束や精神的な拘束を行わない介護に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に家族とは充分に話し合い、双方合意した上で契約や解約を行っている。利用者様にも不安のないよう説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションを通じて信頼関係を築き、意見や不満を表出できる環境を整えている。介護相談員や面会者など外部の方々と自由に話せる機会を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には面会の際に日々の様子をお伝えするほか、特別変化があった時には電話にて報告し、相談するなど連絡を密にしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回の家族会のほか、来苑した際に管理者や職員が話を聞いて意見や不満をくみ取るようにしている。外部の苦情受付窓口についても玄関の見やすい場所に掲示している。玄関にご意見箱を設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員提案箱を設置しているほか、常時職員間の意見交換で出た改善案等は主に管理者を通して運営者に伝え、反映させている。運営者も、積極的に意見を聞く機会をもつよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入浴日や通院介助、行楽等の外出のある日にはあらかじめ職員を多く配置し、十分な対応がとれるよう調整している。夜間の体調急変や救急時には、緊急連絡網で管理者や職員がすぐに対応できる体制をとっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規職員の入職については慎重に検討し、また今のスタッフが長く仕事を続けられるよう個々の事情に応じたローテーションを組むなど労働環境に配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数や希望に応じて研修の機会を設けている。また、レベルアップにつながる資料があれば積極的に取り入れ回覧している。</p>	<p>○</p> <p>研修の機会をもっと増やしたいが、勤務調整の面から難しいので、内部での勉強会を定期的に行うようにしたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、定期的な会合で情報収集や意見交換を行い交流に努めている他、市が主催する介護事業者向けの会合等になるべく出席している。</p>	<p>○</p> <p>他施設との交換研修や相互訪問の機会を増やしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士が日頃の思いを話し合い、気分転換する為に、定期的に食事会等を行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、管理者と連携して個々の実績等を把握しているとともにケアに関しての其々の意見等も出来るだけ取り入れている。。また、勤務に関しても職員の都合等を聞き、個々に合わせた勤務が出来るよう努力している。各資格取得の奨励もしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用開始前に面談する機会を設け、できるだけご本人の希望を聞き取るよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>プライバシーに配慮しつつ情報収集を行い、家族の思いを汲み取るようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望を第一に考えて対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にホームを見ていただき、本人と家族が安心して入所を決定されてからサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お一人ひとりを人生の大先輩として尊重し、家事や季節の行事だけでなく文芸や園芸等あらゆる場面で教えていただく機会を設け、本人が生き生きと活躍できる場を提供できるように取り組んでいる。助け合いの精神を大切にしている。	○	日々のコミュニケーションや家族との情報交換をもとに生活暦の把握に努め、本人ができることや望むことをより多く生活の中に取り入れられるよう努力していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に家族の思いを受け止め、協力し合いながら生活を支えていくよう努めている。キーパーソンだけでなく、なるべく多くの親族が本人を支える輪に加わっていただけるよう働きかけている。	○	家族によって認知症への理解度や現在の本人の状態をどれだけ分かっているかが違うので、その対応によって本人が混乱しないように配慮が必要と思う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族からの情報提供や本人からの聞き取りをもとに、これまでの関係を理解し、今後の関係が良好に保てるよう支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時受入れ、外出、外泊も自由にしていただき、関係が途切れないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い人や気の合う人同士が交流しやすいよう席順を設けたり、外出や共同作業などを通じて仲間意識が持てるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	先方の都合に配慮しつつ退所先を訪問し面会して、その後の様子を伺う等、できる範囲で取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションや様子観察を通じて本人の思いや希望の把握に努める他、家族からなるべく多くの情報が引き出せるよう、日頃から話し合う機会を多く設けるようにしている。相手の立場に立ってニーズを検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取った情報はプライバシーに配慮しつつ共有し、ホームでの暮らしに生かすようにしている。他施設より移られた方は、情報提供表や介護サマリーの他、不明な点は前ケアマネジャー等に問い合わせるなど情報収集に努めている。	○	生活暦についてはご家族も知らない部分があるので、日頃から気付いた事はこまめに記録するなどして情報の掘り起こしを継続していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子を記録に残し、変化があった時には申し送り時や会議で検討し、現状に即したより良い介護ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・職員と話し合いを重ねて、気づきや意見を取り入れて理解をシェアって介護計画を作っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期にカンファレンスを行い見直している。特別な変化があった場合は、その都度話あっている。	○	期間に応じた見直しは行ってきたが、認知症の進行が早い方など必要に応じて見直しは早めに行うようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録をもとに申し送りや職員会議で検討し、見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて緊急性がある場合には、短期入所の利用も受け入れていく。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署には防災訓練や救命講習などで協力していただいた。毎月の家族会では、主にボランティアセンターに慰問団体の紹介をお願いしている。、老人クラブや民生委員にも協力していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム入所の為利用できるサービスが制限されるが、できる範囲で支援していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、事例等はなし。	○	今後、必要に応じてこちらから働きかけていこうしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望をもとに、それぞれ「かかりつけ医」を決定し、受診、往診等してもらっている。医師には日頃の様子をよく伝え、医療が適切に受けられるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>具体的に個別の段階的取り組みについては、今後必要に応じて話し合いを重ねていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみはこめても丁寧な言葉遣いを心掛けている。職員は個人情報に関する誓約書にかけてプライバシーの保護には重々配慮している。入所時に「虹の家新聞」への名前と写真の掲載の可否について家族に確認している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの認知症のレベルに応じた声かけやジェスチャーで接し、言葉でうまく表せなくなった利用者様は表情や行動などをみて本人がどうしたいのかを汲み取るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者様一人ひとりのペースに合わせて支援している。レクリエーション等への参加も無理強いせず、居室で鉢植えの手入れをしたり午睡や片付け等して一人で過ごす時間も大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	隔月で理容師の出張サービスがあるので、希望される方は利用している。個別の美容院は家族に対応していただく。服を一緒に選んだり、クリームや口紅等で薄化粧をしてお洒落が楽しめるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を皆で考えたり、食材の下準備や調理、盛り付けなどに参加して頂くほか、食後の下膳や食器拭き等片付けも一緒に行うようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー好きな方にはお小遣いで購入しておき、希望される時、お出ししている。こちらで用意するおやつのほか、飴やチョコレートや養命酒など個別にお預かりしているものは希望に応じてお出ししている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記録してパターンを把握し、時間をみて声かけ、誘導する等、失敗を未然に防ぐよう支援している。リハビリパンツや尿取パッドは状態の変化に応じて使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員配置の限界もあり、安全にゆっくり入っていただく為にも、曜日と時間帯は決めざるを得ない。順番はなるべく希望に合わせて、菖蒲湯やゆず湯など季節の薬湯を楽しめるよう工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	必要に応じて居室や共有スペースで午睡したり、日中、日光浴や運動を促すことで夜間良眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事への参加や、園芸、読書、映画鑑賞など一人ひとりが保持能力を最大限に活かし、生活を楽しめるよう環境整備に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談の上、お小遣いとして一定額をお預かりし、ホームで管理している。以前、利用者様本人に所持してもらったがしまった場所が分からなくなり、紛失、発見を繰り返し、本人だけでなく周りも混乱してしまった。	○	これまで個別の買物は頼まれて職員が代行する事が多かったが、今後はお小遣いを持って買物に行く機会を増やしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族との外出を支援する他、ドライブや買物へ職員と出かけたり、散歩や回覧板を回しに行くなど外へ出る機会を増やすようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年、一昨年とご家族にも参加していただき日帰り温泉旅行を行い、利用者様に好評だった。群馬の森や博物館、ららん藤岡や外食にも出かけるようにしている。	○	今後も図書館や昔なじみの飲食店など利用者様が行きたいと思うところへ行けるよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については御家族の都合も考慮しながら必要に応じて支援している。手紙は勧めてみても書きたがらないが、受け取る事はあり喜ばれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等は設けず、いつでも受入れている。希望に応じて居室や共有スペースでゆっくり過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束および精神的拘束は行わない」と理念にもあることをすべての職員が理解しており、実践に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関とホール入り口の鍵はかけない。両所の開放時にはブザーが鳴るので利用者様の動きは把握できるが、不穏時等危険のある時は家族の了承の上、一時的に施錠するときもある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は主に早番が見守りの責任を持ち、見守りが中断される時は、他の職員に必ず引き継ぐ等安全に配慮している。夜間は夜勤者が巡視し、特変があった時には電話にて管理者に報告する。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりに合わせ、ご家族とも相談しながら危険を防ぐ対策を立てている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの行動パターンを把握して危険予測を立て、ヒヤリはっとも活用しながら事故の防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年は家族や地域の方も招き、救命講習会を行った。	○	今年も講習会を開きたい。また、職員の勉強会も充実していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、利用者様も一緒に防災訓練をしている。	○	今年是小規模多機能型ホームが併設されたので、今後、合同で訓練を行う予定。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その時々々の状況、状態に応じてご家族に説明し、相談の上、対応策を決めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の観察記録をもとに異変を発見した時は速やかに管理者へ報告、必要に応じ家族やかかりつけ医と相談の上、対処している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人ひとりのお薬ファイルを用意して処方された薬が一覧できるようにしている。薬の補充や追加、変更があった時には必ず申し送り、症状に変化がないか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	起床時に冷たい牛乳を飲んでもらったり、食事内容の工夫、日中の運動量を増やす働きかけ、腹部マッサージ等を行い、排便習慣をつけるようにしているが、慢性の便秘の方には医師と相談の上、便秘薬も使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、各自の歯磨きセットを用意して、ご自分でできる方は見守り、できない方は必要に応じて介助しながら、口腔内の清潔が保たれているかチェックしている。夜間は義歯を外してもらい、日曜日は入歯洗浄剤にて消毒している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量をチェックしている。水分摂取の拒否がある方には脱水症にならないよう飲み物の工夫やこまめに摂取していただく等配慮している。食事摂取が困難な場合は、医師と相談の上、栄養補助食品を取り入れて対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いの励行、使い捨てペーパータオルを使用している。感染症予防の研修を受けた職員を中心に、予防、対策を実行している。インフルエンザの予防接種は、毎年、利用者と職員全員が受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用のエプロンとスリッパはホールと別のものを使用。まな板、布巾の消毒はこまめに行い、食器は洗浄後、熱湯消毒する等、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭や菜園作りに、利用者、家族、地域住民、皆が参加することで親しみやすくなったのではないかと思います。玄関は、日中鍵をかけない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の風物や花を利用者様と一緒に飾りつけ、居心地良く楽しく過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが自分の気に入りの場所を持っており、居心地良く過ごされている。気の合う人同士と一緒に過ごせるよう、配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、愛着のある置物や人形、大事にしている鉢植え等を持ち込んでいただき、安心して過ごせる空間になるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレの喚起はこまめに行い、ホールや居室は室温や利用者様の様子に配慮しながら、空気の入替えを行っている。温度計を数箇所設置し、チェックしている。冬場は加湿器を使用し、空気の乾燥を防いでいる。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや廊下に手すりが設置されている他、ホールや各居室の家具の配置等、一人ひとりが安全にかつ自由に移動や活動できるように工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの認知症のレベルや日常の状態に合わせ、日常生活動作がしやすい環境を整えると共に、過干渉にならないようできないことはさりげなくカバーするようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の芝生でお茶を飲んだり日光浴できるよう椅子とテーブルを設置している。庭や菜園を整備して花や野菜の手入れや収穫が楽しめるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「虹の家」では、家族との絆を大切にしています。利用者様と御家族のふれあいの場として、又、家族同士の交流の機会を設けるため、月に一度、家族会を開き、皆で誕生日をお祝いしたり季節の行事を行っています。